

山形県におけるアカツクシガモ *Tadorna ferruginea* の記録

日本野鳥の会山形県支部 築川堅治

アカツクシガモ *Tadorna ferruginea* は日本では稀な冬鳥として主に西日本を中心に飛来する。山形県では1917年11月の初記録以来、2021年12月までに少なくとも5回の記録があることがわかっており、本稿では筆者が直接観察した2021年12月の記録の他に、過去の記録をまとめた。

観察状況

2021年12月6日、酒田市のT氏により鶴岡市大山下池で本種♀1羽が観察撮影された。観察はこの日のみであり、その後は行方不明になった。同年同月11日、鶴岡市のT氏により鶴岡市米出新田で本種♀1羽が観察撮影された。最初に発見された鶴岡市大山下池と次に発見された鶴岡市米出新田は、直線距離で約3.5kmしか離れていないことや同じ♀であることから、同一個体と考えるのが妥当だろう。

筆者は観察したのは鶴岡市米出新田で再発見された12月11日であった。この個体はいわゆる“冬水たんぼ”をハクチョウ類とともにねぐらにしており、日中はコハクチョウの群れのそばで採餌などをしていたり、単独で採餌していたりしていた。冬水たんぼから飛び立つ際に、一度だけ「クワッ」と鳴いたのを聞いた。終認は12月25日であり、それまではほぼ同じ場所で観察されていたようだ。

なお、2021年11月末には秋田県由利本荘市でアカツクシガモ♀1羽が出ており、

同年12月に本県で記録された後、2022年1月末には福島県南相馬市、同年2月18日～3月25日には宮城県仙台市で同じくアカツクシガモ♀1羽が出ている。本種の記録が東北では稀なことと、時期的、地理的な関係から、すべて同一個体と考えるのが妥当だろう。



図1. コハクチョウと本種 2021年12月11日筆者撮影

分布

本種は、ユーラシア大陸中部で繁殖し、北アフリカ・南アジア・中国・朝鮮半島で越冬する。日本では稀な冬鳥として飛来。全国から記録があるが、中国地方以西の記録が多いとされている(桐原 2000)。また、東北地方以北では稀とされている(大西 2014)。

記録

本種の山形県における確実な記録は過去3例で、1917年11月に庄内地方(狩猟)、

1963年11月20日に村山市大高根、1989年1月6～9日に酒田市最上川河口がある他、1975年頃(?)に村山市湯沢沼、年月日不明として酒田市飛島がある。



図2. 飛翔 2021年12月25日当支部会員T氏撮影

参考・引用文献

- 清棲幸保 1965.日本鳥類大図鑑.講談社、東京
- 桐原政志・山形則男、吉野俊幸 2009.日本の鳥 550 水辺の鳥 増補改訂版.文一総合出版、東京
- 日本動物学会 1918.動物学会誌第351号.日本動物学会、東京
- 日本鳥学会 2012.日本鳥類目録改訂第7版.日本鳥学会、三田.
- 日本野鳥の会山形県支部 1978～2021.ヤマセミ創刊号～97号.
- 真木広造・大西敏一・五百澤日丸 2014.決定版 日本の野鳥 650.平凡社、東京

(2022年6月26日 記)